

# 第四十二回『少年の主張京都府大会』概要

## 1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切である。

少年の主張京都府大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願って実施した。

## 2 主 催

(公社) 京都府青少年育成協会・京都府PTA協議会・  
京都市PTA連絡協議会・(独) 国立青少年教育振興機構

## 3 後 援

京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府公立中学校長会・京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

## 4 作文の内容

- (1) 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- (2) 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友達たちとの関わりなど。
- (3) テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

## 5 応募対象

京都府内の中学校及び特別支援学校中等部に在籍している生徒。国籍は問わないが、日本語で発表できることが必要。  
なお、作品は一人一作品で未発表、自作のものに限る。

## 6 経 過

### (1) 作文募集

令和二年四月下旬、募集要項及びポスター等を府内各市町村・市町村教育委員会、各中学校、青少年団体、関係機関等へ配布して募集

### (2) 募集締切

令和二年八月三日(月) 応募総数 千五百八十六編(二十三校)

### (3) 応募作文の審査

令和二年九月三日(木)、第二次審査委員会を開催、入選十七編及び佳作二十編を選定

### (4) 「少年の主張京都府大会」

令和二年九月二十七日(日)、本願寺間法会館「多目的ホール」において、本大会を開催  
十七名(一名欠席)の入選者が主張を発表。審査の結果、各賞を決定

〔審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)  
石川 一郎(委員) 上田 静男(委員) 植松 明彦(委員)  
立垣 典子(委員) 坂本 博士(委員) 水谷 公祐(委員)  
村田 博哉(委員) 柳澤 彰紀(委員)

### (5) 「少年の主張」全国大会への推薦

令和二年十一月八日(日)に開催された全国大会(≒eet開催)の出場候補者として、京都府知事賞を受賞した京田辺市立培良中学二年生白岩璃奈さんを推薦し、審査の結果、国立青少年教育振興努力賞を受賞された。

### (6) その他

「少年の主張京都府大会」の様様をネット配信しました。

